

5月20日、3年の任期を終えアルメニアから帰国しました。

剣道を通じて日本をより良く理解してもらおうと2016年2月から 剣道の稽古をはじめてから2年と3ヶ月。

週一回、土曜日2時間だけの稽古ではありましたが熱心に通ってくる仲間と一緒に楽しい稽古を重ねることができました。

この間に稽古に参加したのは5歳の子供から60歳にわたる学生、大学教授、弁護士、空手有段者、合気道愛好家、ジャーナリスト、ビオラ奏者など幅広い年齢層と経験のアルメニア人。一度でも稽古に来た人数を含めて数えれば、およそ70名～80名くらいが 竹刀をはじめ握り、剣道を体験したと思います。

そして5月20日に隣国ジョージアで実施されたヨーロッパ剣道連盟主催の段審査を受審した6名全員が初段に合格することができました。

これも偏に真砂名誉会長、吉山会長をはじめとする新宿剣道連盟の皆様のご支援の賜物です。改めて皆様からのたくさんの支援に心から感謝申し上げます。

現地で剣道用具を入手することは不可能であり、皆様からの御厚志で送られた竹刀、剣道着、防具なくしてアルメニアでの稽古は成り立ちませんでした。

本来であれば、剣道着や防具の寄贈、収集、保管など様々な形でお力添えをいただいた皆様お一人お一人にお礼を申し上げるべきところ書面にての失礼をお許しいただきたく思います。

本当に有難うございました。

また、2016年の9月に松村先生、佐藤先生、山口先生、滝澤先生、清水先生による出張指導と武道フェスティバルへの演武参加、そして本年4月には松村、佐藤、清水の三先生に再び渡航いただき指導いただいたことは私にとってもアルメニアの仲間たちにとっても大変心強いことであり、良い思い出となりました。

この交流を通じて「交剣知愛」の精神は新宿そして日本からアルメニアに広がったと確信します。

来年秋には何人かの仲間が二段の受審を兼ねて新宿剣連の稽古に訪日するだろうと期待しています。まだまだ生まれたばかりのアルメニア人剣士たちですが、人類文明史の最初のページに記された歴史ある国の誇り高き剣士たちに引き続き温かいご支援をいただきますようお願いいたします。

田口 栄治